

1 受賞者の皆様からコンテスト終了後に感想をいただきました。

受賞者の皆様からコンテストに参加した感想や、今後の目標等について、コメントをいただきました。
あわせて表彰式の際のプレゼンターとの写真も掲載しておりますので是非ご覧ください。
なお、今回はその中から、経済産業大臣賞受賞者のコメントをご紹介します。

■団体部門

チーム名：MOOMAN（鳥羽商船高等専門学校）
作品名：P.M.カラオケ-Projection Mapping KARAOKE-

この度は経済産業大臣賞という素晴らしい賞をいただき大変嬉しく思います。私はU-22プログラミング・コンテストに参加して多くの衝撃を受けました。最初に驚いたのは、参加者の年齢層の幅広さです。今回の応募者数は200を超えていると聞きましたが、予選通過者には小中学生が何人もいて年齢問わず公平に審査されていると感じました。

会場で実際にプレゼンを聞いて、どの参加者も自信を持っていると感じました。特に、今回の参加者で唯一の小中学生の発表は衝撃的すぎて口が開いたまま聞いてしまいました。

そして、それぞれの作品のレベルがとても高かったことに驚きました。プログラミング言語から実用的なアプリまで様々なジャンルの作品があって最後まで楽しくプレゼンを見ることができました。

このコンテストに参加することは、いい事尽くしです。多くの作品を見ることで視野が広がりますし、全国の学生、企業の方との繋がりが出来ます。趣味でプログラミングしている人、授業でプログラミングしている人など様々だと思いますが、進んで参加し、せっかくの作品が埋もれてしまわないようにしてほしいです。

こういった場で評価される事によって注目度が上がり、開発のモチベーションもとても上がりました。私達は今回応募した「P.M.カラオケ」を全国に広めるため日々改善を行っています。

■個人部門

氏名：西田 直樹
作品名：Nyaplot v0.1.1

Nyaplotは私が2014年の5月から8月の間、Google Summer of Code 2014を利用して製作したデータ可視化用ライブラリです。期間中は科学研究の分野にRubyを広めることを目的とする団体であるSciRubyからメンターを1人付けていただき、その指導を受けながら開発しました。

実はNyaplotを作り始めた際、コンテストにこの作品を出す予定はありませんでした。応募を決めたのはNyaplotがとりあえずの完成に近づいたときで、周りの評価が高くこれなら何か受賞できるかもしれないと思ったことが理由でした。

いくつかあるコンテストの中でU-22プログラミング・コンテストは前年度のセキュリティ・キャンプで同じクラスだった佐藤君が過去に受賞を決めていたこともあり、親しみがあつたため応募を決めました。

このソフトウェアを開発する際に意見を聞いていただいたのは主に研究者の方でした。SciRubyのメンターの方も研究者でしたし、自分の所属する大学の教員に意見を頂いたこともありました。その中で産業界の方に面白いと評価していただいたのはとても大きかったと思います。

受賞が決まった後、データ可視化にも関連するデータフレームの開発案が公募を通り、約4か月間の開発継続が決まりました。これからもRubyで学習・研究がしやすくなるようなソフトウェアの開発を続けていきたいと思っています。

氏名：馬屋原 昂
作品名：Copal

私が初めてプログラムを作ったのは、HSPという主にゲーム作成用のプログラミング言語を用いた、小学生の頃に作った恐竜のRPGです。初心者プログラマーのあるあるですが、変数名がローマ字だったと思います。

最初は軽い気持ちで応募したのですが、受賞できて良かったです。作品であるインタプリタCopalの製作期間は2~3週間ほどでしたが、コーディングしてる時間全般はとても楽しいものでした。応募する際に必要となる書類や紹介スライド・動画作成に意外と苦労してしまい、追加で1週間ほどもかかってしまいました。余分なところに重きを置いてしまった気がしますが、結果的には自分の成果のアウトプットする機会が得られ、良い経験になったと思っています。今後は作成したインタプリタCopalの改良をしていきたいと思っています。

プログラミング以外ではボールジャグリング・ルービックキューブをしている時間が好きです。

応募してみようかと思っている人は、「プログラミング言語」というジャンルで応募するといいいと思います。

氏名：大谷 孟宏
作品名：Image Encrypter

今回は経済産業大臣賞をいただき、大変うれしく思っています。このコンテストでは、画像を画像のまま暗号化するというプログラムを作成しました。暗号化ということで、暗号化のアルゴリズムが重要になってきますが、今回は暗号化のアルゴリズムよりも、画像を画像のまま暗号化することと、画像に目に見えない電子透かしの挿入をするという機能を活かしたプログラムを作成することにしました。しかし、画像の暗号化を利用するため、新しい暗号化を作ることは避けて通れません。それにあまり暗号化には詳しくないし、脆弱性の危険性もあると思います。しかし今回はそれを承知の上で応募しました。このプログラムのメインは画像の利用であり、暗号化はメインではありません。本当はより完璧なプログラムが良いのですが、今の自分の知識ではどうしようもありません。つまり、そのプログラムがとりあえず動作し、面白いアイデアであれば何でもOKで

す。(公開が直ぐでなければ) 因みにこのプログラムはC#で作成し、Modern UIのようなシンプルなGUIで作りました。何かアイデアができれば、シンプルにプログラムしたり、GUIを作ったりすると良いかもしれません。

※すべての受賞者のコメントは公式Webサイトでご確認いただけます。

個人部門：<http://www.u22procon.com/kojin.html>

団体部門：<http://www.u22procon.com/dantai.html>

2 公式Webサイトで最終審査会の様子を一部公開しております。

公式Webサイト「コンテストを終えて」のページに最終審査会の様子と、翌日の情報化月間記念式典の様子を一部掲載しております。
最終審査会の雰囲気や懇親会の様子がわかりますので、応募したかた、応募してみようかと悩んでいる方は一度是非ご覧ください。

▼最終審査会の様子

<http://www.u22procon.com/saisyu.html>

▼情報化月間式典の様子

<http://www.u22procon.com/photog.html>

事務局のつぶやき

だいぶ寒くなってきましたね。現在事務局では今回の実施報告書を取りまとめ、実施内容を振り返りながら、今後より良いものにしていくためにどうすれば良いか、検討しているところです。

受賞者の皆様からはコンテストの感想や事務局への要望を伺いましたが、応募した方、応募してみようと思っている方についても、こんなものがあつたらいい、こうしてくれたらもっと応募しやすいというような要望があれば、今後の参考にさせていただきますので、お気軽に事務局までご連絡ください。

※審査会終了後も、U-22プロコンメルマガは引き続き最新情報をお届けします。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
U-22プログラミング・コンテスト運営事務局
〒107-00 東京都港区赤坂1-3-6 赤坂グレースビル4F
TEL: 03-6435-5991 FAX: 03-3560-8441 E-mail: u22-info@csaj.jp
公式Webサイト <http://www.u22procon.com/>